

久我山だより

令和6年5月31日

杉並区立久我山小学校

電話(3331)3631 FAX(3247)8415

URL <http://www.suginami-school.ed.jp/kugayamashou/>

「同治」と「対治」で寄り添う

校長 守田 聡美

本校では「同治」と「対治」という言葉を使って指導の在り方を共有しています。詳しくはわかりませんが、仏教用語だそうです。例えば、「同治」とは、泣いている子供の隣に座り「悲しいね」「悔しいね」「辛いね」と気持ちを受けとめることです。一方「対治」とは、泣いている子供に「がんばろう!」「しっかりやろう!」と励ましていくことです。教職員には「子供たちには、この両方が必要である」と、伝えています。この両方が合わさって、「寄り添う」という言葉になると伝えています。

難しいことはありません。お子さんが歩き始めたばかりの頃を思い出してみましよう。公園等に連れて行くと、お母さんの手を放し、数メートル先を散策し始めます。驚いたり、怖かったりすると大慌てでお母さんの所へ戻ってきます。「驚いたね」「怖かったね」と気持ちを受けとめると、安心して、また、散策に出かけます。もっと遠くまで歩いていけるようになると、もっと驚いたり、怖かったりする出来事に遭遇します。また大慌てでお母さんの所へ戻る途中、今度は転んで大泣きします。お母さんの顔を見上げて助けを求めます。よくある光景ですね。そんな時、お母さんは駆け寄らず、

遠くで手を広げてにっこり笑うと、自力で立ち上がり、再び歩き始めて、お母さんの胸に飛び込んできます。そして「がんばったね。つよかったね。」と、声をかけられたのではないのでしょうか。前者が「同治」後者が「対治」です。これらを何度も何度も繰り返すうちに、お母さんやお父さんの手元を離れ、世界を広げ、自ら力強く走りまわれるようになったのではないのでしょうか。自立です。学校も同じだと思います。子供の歩みは、一人一人異なります。慎重にゆっくり進む子供も、大胆に突き進む子供もいます。ただ、どの子供も、驚いたり、慌てたり、泣いたり、躓いたりしながら未知の出来事を乗り越えて、自分の世界を広げていきます。お母さんやお父さんの胸の中に飛び込んだ時のような「安心感」を安全基地にしながら、今ある自分の世界の壁を乗り越えていきます。子供は、未知の世界を自分で歩み、自分で乗り越えて自立を手にしていきます。大きくなると、もうご両親の胸に飛び込んでくることはないでしょう。でも、話を聴いて受けとめることも、黙って一緒に居ることも、心を抱きしめることなのだと思います。子供の力を信じて、「同治」と「対治」の両方で「寄り添い」子供たちの自立をみんなで応援していきましょう。

6月の生活目標

校内の安全な過ごし方を考えよう

6月は雨の日が多くなり、校庭で遊べる日が少なくなります。休み時間を校内で安全に過ごすために、今月は教室の中での過ごし方や、廊下の歩き方などを改めて見直す生活目標を設定しました。学級でも、けがなく落ち着いて安全に過ごせるように指導します。また、10日から水泳指導が始まります。プール使用時の約束を確認して、安全に楽しく学習を進めていきます。

(生活指導委員会 橘内 柚季)